間　怜さん
長岡小学校教諭、精神薄弱児教育三年、情緒障害児教育三年、特殊学級十五年のベテラン先生です。
障害を持つ子供たちの教育に情熱をかたむけています。

S君ありがとう

間　怜（神道寺二）

「昭和五十六年六月十日S君より」と美術宝石時計の裏に書き、時計の針を十時二十五分に合わせると秒針が規則正しく時を刻み始めた。水晶で形どられた二羽の鶴を見つめているとS君の姿と重なってくる。

七年前、いやがるS君を特殊学級に入れ、四年間私にしごかれたのに、しからの三年間で辞典の引き方を身につけてくれましたね。

五年の時は、跳び箱が跳べなくて「もう一回、一回だけ」と何度も繰り返し涙をふきふき、うす暗い体育館でとうとう跳べたのね。うれしかったね、先生もうれしかった。S君には負けたと恥かしくなりました。

春風に当たるだけで湿しんが出たり、ぜん息で苦しんだりしたあなたは、毎朝マラソンや四階まで駆け登りなどして鍛え、身体も立派になりました。

今まで内緒にしていたけどS君が六年生の秋、五年のA君、K君の二人で話をしているのを聞いてしまったの。「男って辛いんだぞ、やりたくなくてもやらんばねえし、俺なんか兄貴だろう、がまんしねえばだめられん、妹やお母さんを守ってやらんばねえしやあ、男って辛いもんでえ」。先生笑ってしまいました。涙が止まらなくて困ったけど、「S君、もう大丈夫ね、中学校へ行っても立派にやっていけるね」と、つぶやいていました。

鶴の時計がいつの間にか十一時を過ぎてしまいました。「S君ありがとう、本当にありがとう」

れてばかりいたのに……ありがとう。あなたの作ってくれた水割り、おいしかった。本当よ、料理も食べきれないほど並べてくれて、うれしかっ…。おいしかった。

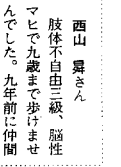
初の給料で、中学校のY先生と私を今夜招待してくれて、帰りには「先生これ」とこんな高価な時計を渡してくれて、あなたが四年の時に鳥肉が食べられないで困っていた先生を「先生なんか医者に止められてるんで」、とかばってくれましたね。そうそう「書」の字がかけなくて黒板一杯に泣きながら書いて、漢字には筆順があり「、」がなくってもだめだということを理解し、それから卒業までの全面参加と平等」を実現するために、十年間にわたる国内行動計画をたてるようによびかけています。

私たちは、昨年十二月に民間の国際障害者年新潟県推進協議会をつくりました。「友だちがつくりたい」「外に出たい」「勉強がしたい」などのねがいを実現しようと、九年前に「障害者の未来を切り開く会」をつくりました。その中で、「人なみに働きたい」という切実な願いをふくらませていきました。

一九七八年、仲間、親、障害者団体が手をつないで「白山作業所」を作りました。今、私たちは十四人の仲間と二人の職員が「まくら」と「クッション」作りをしています。作業所は、まくらの材料のそばがらや布地の仕入れは皆で交替で行っています。また、映写会や廃品回収、しろやまつり等を行い、地域とのつながりを深める努力をつづけています。それに、お料理サークル、音楽会、演劇鑑賞などのサークルに参加して、いろいろな人たちとの交流を深めつつあります。

私たちは、同年齢の市民と同じ生活をし、学び、働き、文化的にゆたかに生きることを願っています。

私たちは、国際障害者年を平和でみんながしあわせになる社会づくりに結びつけていきたいと思います。



西山　昇さん
肢体不自由三級、脳性マヒで九歳まで歩けませんでした。九年前に仲間たちと「障害者の未来を切り開く会」を結成、その活動の中から、白山作業所を開設しました。現在、白山作業所所長、三十歳。

私たちと国際障害者年

西山　昇（一番堀通）

一九八一年を国際障害者年と国連が決め、テーマとして「社会生活と社会発展

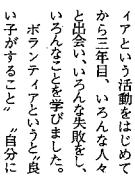
ボランティアとは

～国際障害者年に思う～

私たちの周りには、さまざまな人が住んでいます。健康な人、病気がちな人、若者にお年寄り、そして体や心に障害を持っている人もその中の一人です。

国際障害者年を迎え、今年は民間レベルでも、行政の側からも、いろいろな企画が打ち出されています。それに呼応するかのように、障害者の姿が街に見かけられるようになり、積極的な発言が目立つようになりました。

今回は、〝障害〟とかかわりあいのある4人の方から投稿を寄せていただきました。



長谷川　あつ子さん
高校生ボランティアグループ〝キープスマイル〟の一員。白山作業所の廃品回収や、おりづるコンサート――など多彩な活動を展開しています。

ボランティア　誰もが自然になすべきこと

長谷川　あつ子（新潟商業3年）

私が、いわゆるボランティアという活動をはじめてから三年目、いろんな人々と出会い、いろんな失敗をし、いろんなことを学びました。

ボランティアというと〝良い子がすること〟〝自分には関係ないこと〟と思う人が大勢いるかもしれません。しかし、それは違います。私は決して〝良い子〟ではないし、それは、誰もが生きていくうえで、自然になすべきことだと思うからです。ボランティアという言葉をきくと、なぜか特別の活動のように思われがちのようですが、それは、私たちが生活していくうえで、自分の身のまわりの人と手をとり足をとって自分にできることを見つけて、その範囲で協力しあっていく、それが、ボランティアの原理だと思います。原理などというと、むずかしく感じるかもしれませんが、未熟な私が私なりに精一杯考えた結果、それは、人が人を思いやることにより始まるということだったのです。

このような考え方をする私は、世間知らずの子供なのかもしれません。しかし、今まで多くの障害者の方や、その家族、ボランティアの人、そして私たちのために一生懸命考え動いてくださる方と出会い、いろんなことを考えた結果が、こうだったのです。思いやり、いたわり、優しさが大切だということだったのです。

私の考え方が、こう変っていくのかは見当がつきません。しかし私は一生、自分の生活といわゆるボランティアの生活を共にして生きていくと思います。そして何かに傷ついていることも困っていることもあると思います。人は皆、いい人だと思います。そして、そして、いつも心に優しさを持っていたいと思います。

もっとも大きな歓びである自身反省して考えなければならない。社会的風潮も障害者のそういう態度を育てている。したがって障害者の雇用に対しても、障害者はめんどうを見てあげても、働かせる、という考えはでてこない。

五十一年に「身体障害者雇用促進法」が改正され、企業の社会的責任として雇用促進が図られているが、雇用率は低く、全体に中小企業には多く雇用され大企業には少ない。

今障害者にとって何が真の生きがいなのか、それは健常者と差別なく働く機会を与え、正当な評価をすることが障害者にとっては、なくてはならない。そんな時、その人に対していたわりの気持をもつことにより、とても穏やかで暖かい世の中になるような気がします。

私が、いわゆるボランティアという活動をはじめてから三年目、いろんな人々と出会い、いろんな失敗をし、いろんなことを学びました。

ボランティアというと〝良い子がすること〟〝自分には関係ないこと〟と思う人が大勢いるかもしれません。しかし、それは違います。私は決して〝良い子〟ではないし、それは、誰もが生きていくうえで、自然になすべきことだと思うからです。ボランティアという言葉をきくと、なぜか特別の活動のように思われがちのようですが、それは、私たちが生活していくうえで、自分の身のまわりの人と手をとり足をとって自分にできることを見つけて、その範囲で協力しあっていく、それが、ボランティアの原理だと思います。原理などというと、むずかしく感じるかもしれませんが、未熟な私が私なりに精一杯考えた結果、それは、人が人を思いやることにより始まるということだったのです。

このような考え方をする私は、世間知らずの子供なのかもしれません。しかし、今まで多くの障害者の方や、その家族、ボランティアの人、そして私たちのために一生懸命考え動いてくださる方と出会い、いろんなことを考えた結果が、こうだったのです。思いやり、いたわり、優しさが大切だということだったのです。

私の考え方が、こう変っていくのかは見当がつきません。しかし私は一生、自分の生活といわゆるボランティアの生活を共にして生きていくと思います。そして何かに傷ついていることも困っていることもあると思います。人は皆、いい人だと思います。そして、そして、いつも心に優しさを持っていたいと思います。

もっとも大きな歓びである自身反省して考えなければならない。社会的風潮も障害者のそういう態度を育てている。したがって障害者の雇用に対しても、障害者はめんどうを見てあげても、働かせる、という考えはでてこない。

五十一年に「身体障害者雇用促進法」が改正され、企業の社会的責任として雇用促進が図られているが、雇用率は低く、全体に中小企業には多く雇用され大企業には少ない。

今障害者にとって何が真の生きがいなのか、それは健常者と差別なく働く機会を与え、正当な評価をすることが障害者にとっては、

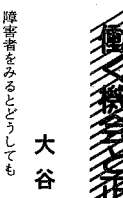
働く機会と社会参加を

大谷　勝彦（紫竹山一）

障害者をみるとどうしても特殊な人間として興味本位に見てしまう。あるいはかわいそうだとあわれみの目で見てしまう。また、障害者自身もこのような社会的風潮であるから劣等感を持って人に引けめを感じる。そして「私は障害者なんだから、特別にあつかってもいいだろう」ということになる。このあたりは障害者自身反省して考えなければならない。社会的風潮も障害者のそういう態度を育てている。したがって障害者の雇用に対しても、障害者はめんどうを見てあげても、働かせる、という考えはでてこない。

五十一年に「身体障害者雇用促進法」が改正され、企業の社会的責任として雇用促進が図られているが、雇用率は低く、全体に中小企業には多く雇用され大企業には少ない。

今障害者にとって何が真の生きがいなのか、それは健常者と差別なく働く機会を与え、正当な評価をすることが障害者にとっては、



大谷　勝彦さん
印鑑店経営、八年前から障害者を積極的に採用を開始。現在、従業員二十九人中二十人が障害者で、障害者の適性と能力を十分調べ、それを経営の中に生かしています。

ご存知ですか、こんな制度を

問い合わせ　市障害福祉課（☎28―1000）

一、**補装具の給付**　身体障害者手帳一級から六級（内部障害者を除く）の人を対象に、補装具の給付を行っています。

二、**日常生活用具の給付および貸与**　日常生活用具の給付または貸与を行っています。

三、**重度身体障害者（児）に対する移動入浴車の派遣**　移動入浴車を派遣して、家庭奉仕員による入浴のサービスを行っています。

四、**家庭奉仕員の派遣**　家庭奉仕員を派遣して、適切な家庭介護を行います。

五、**心身障害者（児）短期里親制度**　保護者同士の助けあいとボランティアの協力による短期の里親制度があります。

六、**重度身体障害者に対する福祉電話の貸与**　緊急連絡とコミュニケーション確保のため、福祉電話を貸与しています。

七、**心身障害者（児）交通費助成**　通所に必要な交通費の一部を助成しています。

八、**リフト付き福祉タクシー利用料金助成**　重度身体障害者が社会活動に参加するためリフトタクシー（大型料金）を利用する場合、普通タクシー（小型料金）との差額を助成します。

九、**盲人ガイドヘルパーの派遣**　視覚障害者が、社会生活上外出が必要なとき、適当な付添者が得られず支障がある場合に、ガイドのためのヘルパーを派遣する制度です。

十、**住宅整備資金貸付制度**　障害者の専用居室等の新築および増改築、または改造のための資金を貸付けています。

その他、**相談・指導**として、心身障害者（児）更生相談、指導、心身障害児療育指導、母子教室、ことばの相談室、民間相談員、心身障害児療育専門指導（専門指導スタッフ）があります。

◆記念大会
期日　11月29日
場所　音楽文化会館
内容　講演、意見発表など

◆記念運動会
期日　9月27日
場所　市陸上競技場

国際障害者年記念行事

やさしさを行動に！

障害をもつ人へのエチケット

一、人間一人ひとりがちがうように、障害をもつ人も一人ひとりがちがいます。

障害をもつ人びとをひとまとめに考えるのはいけません。障害をもつ人一人ひとりが別々の人格をもつ人間だということを認識してください。

二、障害をもつ人びとと共に生きるということは、心豊かな人間性の証しです。障害のあるなしにかかわらず、お互い助けあって生きるのはごくあたりまえのことです。

三、障害をもつ人びとの手助けをするときは、その人が何をしてほしいかを聞くことからはじめましょう。ひとりよがりで手を出すのは、おせっかいになります。